

フランス国際大会 2025 5月24日

1) 日程

5月21日(水): 集合羽田空港 羽田⇒パリ・シャルルドゴール空港着

5月22日(木): 通関後⇒高速鉄道シャルルドゴール空港駅⇒ロレーヌ駅⇒サンディエヘ サンディエ泊

5月23日(金): 審判講習会 サンディエ泊

5月24日(土): 国際大会 サンディエ泊

5月25日(日): 技術講習会 サンディエ泊

5月26日(月): ホテル⇒ストラスブールへ移動⇒市内観光⇒ストラスブール駅(高速鉄道)⇒パリ東駅 ⇒パリ泊

5月27日(火): ホテル発 ⇒終日パリ観光⇒パリ・シャルルドゴール空港⇒羽田(翌日)

5月28日(水): 羽田到着後解散

2) 大会結果:

1. 大会名: フランス日本拳法40周年記念国際大会 主催: フランス日本拳法協会 (ANKF)

2. 団体戦 混合チーム (男子4名+女子1名): 優勝日本・準優勝メキシコ・3位イタリア・4位フランス

3. 個人戦男子: 優勝土屋・準優勝竹原・3位横井

個人戦シニア男子: 優勝佐藤・準優勝タランツエフ(フランス)・3位バランタン(フランス)

個人戦女子: 優勝塩谷・準優勝B.カリヨ(メキシコ)・3位イタリア

4. 参加国7(参加人数250): フランス(90)・日本(8)・イタリア(110)・メキシコ(30)・スペイン(7)・USA(3)・ウクライナ(2)

3) 審判講習会 5月23日: 山口審判団長 参加人数: 80

4) 技術講習会 5月25日: 山口審判団長・東風濱事務局長 参加人数: 120

5) 遠征メンバー: 団長: 齋藤 辰平(連盟国際部長)

東風濱 義正(競技連盟事務局長)

山口 大輔(競技連盟審判団長)

選手: 土屋 奏生(明治大学)

横井 虎太郎(亀山会)

佐藤 典英(第34普通科連隊)

竹原 照真(中央大学)

塩谷 佳美(関西学院大学 OG)

6) フランス日本拳法協会

会長 Ali Zoubiri (アリ・ズービリ)

副会長 Alexis Ulmer (アレクシス・ウルメ)

副会長 Racid Bensalah (ラシッド・ベンサラ)

審判部長 Roland Marion (ロラン・マリオン)

指導部長 Jonathan Zoubiri (ジョナサン・ズービリ)

齋藤辰平

戦績は上記の様に団体戦優勝、個人戦成人男子は表彰台独占、シニア男子優勝、成人女子優勝の完全優勝。ほぼポイントも取られることがなく期待通りの成績でした。会場には明治大学拳法部部長・佐久間先生、竹原選手のご家族も応援に来ていただき日本選手団も盛り上がりました。

「海外の選手はパワーはあるが技術的なレベルが低い」と常々言われています。今回も一部の選手を除き、同様の感想を持ちました。如何に彼らの技術をレベルアップするかが、今後とも課題になるかと思います。大会の前後に行われました2講習会も多数の参加者の中、盛況のうちに終了しました。審判講習会では正確な審判ルールを、日本での講習会に参加する機会のない現地の審判員にも徹底できたかと思います。技術講習会では山口審判団長・東風濱事務局長による搏撃の形を披露し、特に防具をつけ直接打撃による形は日本拳法の特徴を十分アピールできました。これからの海外での大会では有力選手の参加だけではなく、今回の様な講習会をセットで派遣することが、海外での日本拳法の発展に大いに必要であると考えます。

山口大輔

この度は審判団長としてフランス国際大会に参加させていただきありがとうございました。

大会含め、大きな怪我人等もなく無事フランス国際大会を終えれたことに安堵しています。

現地初日の国際審判講習会では海外審判員、指導者の方々の熱意が凄く、真剣に全てを吸収しようと前向きに取り組まれる姿に圧倒されねよう私も必死で執り行い、改めて審判団長としての責任の重さを痛感致しました。

2日目の国際大会では日本選手団の凄さと、それに立ち向かっていく海外選手達の凄さ、そして少年少女達の真っ直ぐな瞳で日本拳法をしている姿を目の当たりにして感動しました。

また、少年ルールが各国多少違い、面が空撃ではなく軽い加撃（コントロールヒット）を認めるところや投げ技を認めているところがあったり、防具の形状も違ったりと現地に行き知れて良かったです。

最終日は技術講習会で、搏撃の形を防具有り無しで披露し、その後全員で搏撃の形を学び、防具稽古をおこなないました。

ここでもただただ直向きに、積極的に取り組む姿勢に感銘を受けました。

国は違えど日本拳法を愛する気持ちは皆同じ。

このことをあらためて現地で実感できたことを嬉しく思います。

日本拳法を愛する気持ちが同じの次は、同じ方向(指導者同士の友好やルール統一等)に進んでいくように、本家日本が中心となって舵を進めていく。

これが現地に審判団長として行かしていただいた私の次の責務だと感じており、国内外問わずしっかりやっていくと決意新たに思っております。

フランス国際大会に参加された各国の皆様本当にありがとうございました。

また各国の皆様にあえる日を楽しみにしております。

そしてフランス国際大会を開催して下さったフランス協会のアリ会長はじめ、フランス協会の皆様本当にお世話になりありがとうございました。

受けた「ご恩」をしっかり次のご恩に繋げていきます。

土屋泰生

「日の丸を背負って海外で戦う」人生で初めてがつまった旅でした。自分ひとりでは絶対にできない経験をさせていただきました。フランス大会に参加するにあたって尽力してくださった明治大学の方々、両親、チームメイトに感謝しています。

また、道場や高校の後輩からも支援していただき、自分は恵まれているなと感じました。
そして、支えてくださった様々な方々に結果で返すことができたととても良かったです。
また、ぼくは今回の大会が初の海外でした。
子供からおじいちゃんおばあちゃんまで言葉を話せなくても仲良くなれて、こころの会話を実感しました。
仲良くなりたいって思えば勝手に仲良くなれました。
今大会でとても良い結果を残すことができたととても嬉しいですが、これからも自分は結果に満足せず夢に向かって頑張るつもりです。

塩谷佳美

この度は、フランスで開催された日本拳法フランス40周年記念大会に参加させていただき、本当にありがとうございます。私はイタリア、メキシコ大会に続き、3度目の国際大会となりました。3回目ということもあり、多くの海外選手に名前を覚えてもらえたこと、そして国際交流ができたことを大変嬉しく思っています。今大会では、混合の団体戦と個人戦が行われました。メキシコ大会ではあまり良い結果を出せなかったため、最初は緊張がありましたが、試合が始まるといつも通りの動きができたと感じています。また、多くの選手が小学生から大人まで参加しており、試合開始が16時からという日本では経験しないタイムスケジュールだったため、アップのタイミングが難しかったですが、調整しながら乗り切ることができ、個人戦、団体戦ともに優勝という結果で終えることができ良かったです！
また、今大会には審判団長の山口さん、そして東風浜さんが参加してくださり、審判講習会や迫撃の形の披露を通じて、より多くの海外選手に日本拳法を広めることができたことを大変良かったと感じています。審判のトップの方々が講習会を行うことで、海外のルールと日本のルールの差が埋まり、イタリアやメキシコ大会よりも審判団の取り組み方が改善され、さらに良い形になったと感じます。
この国際大会を通じて、日本拳法がさらに盛り上がり、各地に広がっていくことを願い、よりメジャースポーツになってほしいと心から思います。引率していただいた齋藤さんをはじめ、多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

佐藤典英

フランス国際大会を終えて
まず初めに、フランス国際大会40周年記念大会の開催、誠におめでとうございます。
今大会では、個人戦（ベテランクラス）および団体戦に出場し、おかげさまで両部門で優勝することができました。このような素晴らしい結果を残せたことを大変光栄に思います。
また、大会を通じて日本代表選手団のみならず、各国の選手たちと交流を深めることができ、自分自身にとって非常に学びと成長の多い大会となりました。
アメリカ代表のガブちゃん、フランス代表のアンナさん、メキシコ代表のオリベイラさんなど、皆さんとても素晴らしい方々で、それぞれが拳法に対する熱い想いを持っており、大変刺激を受けました。
競技面では、ルールや審判の動作に多少の違いは見られたものの、選手たちの技術水準は日本と遜色なく、非常にハイレベルであると感じました。
さらに、日本からは審判団長として山口先生をお迎えし、審判講習会および大会後の技術講習会が実施され、認識の統一や技術の普及に大いに貢献されました。どちらも大変盛況でした。

今後の大会開催に向けた提言

今後さらに良い大会となるよう、以下に改善点をいくつか挙げさせていただきます：

... 防具の統一がなされていない点（特に子どもたちの試合において）は、安全面でやや不安が残ります。

す。

- ... 一部の選手が試合後の礼を行わずに退場したり、勝敗に過剰にこだわるあまり、礼儀を欠く態度を見せる場面があり、非常に残念に思いました。
- ... 試合数の多さから大会が長時間にわたるため、待ち時間が長く、選手の集中力やパフォーマンスが落ちてしまう懸念があります。特に子どもの試合では、会場を複数設けるなど、進行の工夫が必要だと感じました。

以上の点について、今後の大会運営の参考としていただければ幸いです。

最後に大会運営にあたり、アリ・ズーベリ氏をはじめとするフランス連盟の皆さまには多大なるご尽力とおもてなしを賜り、心より感謝申し上げます。大会を通じて、多くの貴重な経験と素晴らしい思い出を得ることができました。本当にありがとうございました。

横井 虎太郎

今回、フランスで開催された日本拳法の大会に参加する機会をいただいた。海外に行くのはこれが初めてで、期待と不安が入り混じった気持ちで出発した。

言葉も文化も違う国での試合ということで、最初は緊張の連続でしたが、現地の選手やスタッフの温かさに触れることで、少しずつ気持ちも落ち着いた。日本拳法という共通言語があるおかげで、国境を越えて心が通じ合う瞬間が何度もあった。

試合では自分の実力不足を痛感する場面もあったが、それ以上に多くの学びと刺激を受けた。日本での試合とはまた違う空気感、異なる戦い方や考え方に触れ、自分の視野が広がったのを感じた。

自分の拳法人生で一番感慨深い瞬間であった。幼少期から何気なく好きで続けてきたものが世界の人々に自分が思っている以上に親しまれていて、素直に嬉しく感じた。日本チーム一丸で挑んだ今大会は自分にとって今後の人生において大きな財産になると確信している。今回の経験を無駄にせず、今後の稽古にしっかりと活かしていきたいです。そして、また世界の舞台に立てるよう、努力を続けていきます。

竹原 照真

今回の大会を通じて、日本拳法という競技を介してさまざまな国の選手と交流する貴重な機会を得ました。競技を通じた国際交流の中で、外から見た「日本拳法」の姿を実感すると同時に、日本拳法が持つ教えや精神が、国境を越えてさまざまな形で受け入れられ、各国で独自の発展を遂げていることを肌で感じました。それぞれの国が、自国の文化や価値観を交えながら日本拳法を解釈・実践している様子は非常に興味深く、学びの多いものでした。一方で、日本発祥の武道である日本拳法の原点や本質的な価値の深さを改めて認識し、その偉大さに対する敬意を強く抱く機会にもなりました。「発祥国として、この競技の原点を守りつつ、さらに高みを目指さなければならない」という責任感も芽生えました。

また、今回が私にとって初めての海外渡航となりましたが、大会が開催されたサンディエの街は人々が非常に温かく、初めての土地であるにもかかわらず安心して充実した時間を過ごすことができました。異文化に触れながらも、共通言語としてのスポーツを通じて人と人がつながる力を改めて感じることができ、本当に有意義な経験となりました。



